



学校だより  
特別号

野 菊



福島市立吉井田小学校

令和2年5月15日発行

## 必ず 子どもたちの晴れ姿を！



【R2. 3. 3 鼓笛移杖式】

5月13日（水）本来ならば、第43回福島市小学校鼓笛パレードの日でした。当日は市内49校、総勢約3,000名の児童が堂々と文化幼稚園付近から陣場町の交差点まで鼓笛演奏を披露する予定でした。今回は、特別号で演奏するはずだった曲の紹介と、練習に寄り添ってきた先生方の思いを伝えたいと思います。

**演**奏曲は、2曲でした。

1曲目は「パプリカ」。みなさんも、ご存じのとおり、東京オリンピックの応援ソングとして制作された米津玄師作曲の曲で子どもから大人まで幅広く愛される曲です。

2曲目は、勿論「校歌」。吉井田小からの眺めや風景を歌った曲で、4分の2拍子によるゆったりとした流れに乗って演奏される曲です。

**指**導にあたった先生方から、がんばった点や見て欲しかった点を話していただきました。

○ よしいだオリンピックと称した昨年度の

運動会で、今回の演奏曲「パプリカ」で全校ダンスをおこなった。そんな学校が一つになれた曲の意味を、しっかり意識できた演奏になりました。

- 金管・打楽器・鍵盤ハーモニカ・ガードの各パートが、それぞれの役割を果たし、お互いの音色を聴き合い、心を一つに演奏演技ができるようにがんばっていました。
- 業間や昼休みにパートリーダーを中心に練習に取り組み、互いに教え合ったり、自分たちで振り付けを考えたりと、自主性や協力が身につく、学年としてもまとまりが強くなりました。

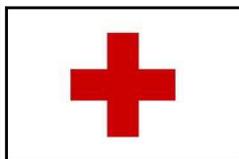
こうしてみると、子どもたちは、鼓笛パレードのための練習をとおり、演奏以外にも多くの事を学び、成長したようです。ただ、やっぱり、どうかして、「晴れの姿を観たい、聴きたい！」という。みなさんも思いは、一緒だと思っています。

# JRC加盟式

「気付き・考え・実行する」これは、青少年赤十字の行動目標です。福島市内の学校は、この青少年赤十字に加盟し自分たちでできるボランティア活動に取り組んでいます。

本校でも、その加盟式を12日に実施し、6年生のボランティア委員会委員長の さんに登録証とワッペンを渡す予定でしたが中止となってしまいました。

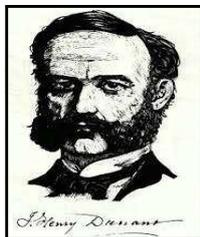
この1年間の活動の中で、どのようなボランティア精神の高まりが見られるか楽しみです。今回の学校だよりでは、集会の中で話す予定だった原稿を紹介したいと思います。



みなさん、こんにちは、今日は、このマークのお話をします。このマークをみなさんは、見たことがありますか？

これは、赤い十字だから「赤十字」ですね。今日は、この「赤十字」のお話をします。

～ 略 ～



このひげもじゃのおじさんの絵を見て下さい。この人の名前を知っている人はいますか。この人の名前は、アンリー・デュナンといいます。今から、200

年ぐらい前に、スイスに生まれた人で、お父さん・お母さんも心の優しい人で、デュナンは小さい時からお父さんやお母さんに連れられ、困っている人に食べ物を届けたり、病気の人をお見舞いし、お世話をしあけてたりしていました。

そんなデュナンが大人になって、外国に行った時のことです。そこでは、大きな戦争が起きていました。そこでデュナンが見たのものは、戦争で亡くなった多くの人、体じゅう傷つき、うめいてるたくさんの人です。でも、助ける人は、誰もいません。何日も何日もそのままになっていたのです。

デュナンは、「そのままにしてはおけない」「なんとしても助けなくては」と思い、敵も味方も区別なく、その土地の人たちと共に、負傷者を助けました。

戦争が終わってからデュナンは、こう思いました。「もっと、もっと一緒に助けてくれる人がいたらいいな。」そんなことを思ったデュナンは、戦争で、兵士を助けたことやその時に思ったことを本にまと

め出版しました。

その本は世界中の人たちに読まれ、世界中で「デュナンの言うとおりの。傷ついた兵士は、もう兵士でなく一人の人間だ。助けなくてはいけない。」そんな事を思う人が世界中に増えていきました。

そして、傷ついた兵士を助けようと、多くの人たちがデュナンのところに集まり、助ける方法や助ける役割や分担を話し合うようになりました。それが、この「赤十字社」です。

そして、世界中で、どんなに戦っている時であってもこのマークを見たら「絶対に攻撃してはいけない。」という世界の約束ができたのです。

その後の「赤十字社」は初め戦争で傷ついた人を助けるためだけでしたが、今では、地震や津波など、自然災害で困っている人へも救助の手を差し伸べるようになっていきます。

ちなみに、日本で一番先の自然災害での救助活動は、私たちの住む福島県での活動でした。

1888年 明治時代に起きた磐梯山の噴火による救助活動、約500人の方が亡くなってしまった大災害でした。そして、それを記念し、裏磐梯の五色沼の駐車場には、記念碑が建てられています。

そういった、困っている人のために、自分のすべてを捧げたアンリー・デュナンも1910年82歳で亡くなってしまいましたが、亡くなる時にこう言ったそうです。「困っている人々を助けることの大切さは、大人には、もちろん、どうか子どもたちにもしっかりと伝えて欲しい。」



その思いを受けてつくられたのが、このマークの「青少年赤十字」で、世界中の子どもたちが参加しています。もちろん、わたしたち吉井田小学校も参加

しています。みなさん一人一人が「青少年赤十字」メンバーです。

～ 略 ～

そして、もう一つお話しします。この青少年赤十字の合い言葉は、「気付き、考え、実行する」です。これは、勉強だけでなく、生活を送る上でも大切なことなのです。どうか皆さん、人のため、社会のためになることを自分の目で見て気づき、自分の考えで、進んで実行してください。そして、自分の学級、吉井田小学校、吉井田の町、福島市、そして、福島県、日本、世界をみんなの力で、よくしていきましょう。

